

募金はこちら

クレジットカード

www.acejapan.org よりお申し込み下さい

銀行振込

三菱東京UFJ銀行上野中央支店（普通）1751825

特定非営利活動法人 ACE（トクヒ）エース

※お振込前後に info@acejapan.org 宛にお名前、募金の使途（東日本応援募金）をご連絡下さい

郵便振替

郵便振替口座：00110-7-5621122

加入者名：ACE

※通信欄に東日本応援募金とご記入下さい

※銀行振込、郵便振替ともに振込手数料はご負担をお願いします

※ACE へのご寄付は寄付金控除の対象となります

ACE の活動

ACE は、子どもの権利が保障され、すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組んでいます。

ピース・インド プロジェクト

インドのコットン生産地域で、働いていた子どもが村の公立学校へ編入できるようにブリッジスクールを運営しています。



スマイル・ガーナ プロジェクト

ガーナのカカオ生産地では、村人がボランティアで子どもが働いていないか見回りをしています。



チョコレートから働く子どもの問題を考える参加型学習を通じて、児童労働がわたしたちにとって身近な問題だと気づききっかけ作りを行っています。



日本ではオンラインショップでチョコレートやタオルなどの寄付つき商品を販売し、子どもたちの支援になる仕組みを作っています。



ACE 東日本大震災復興支援活動報告

遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、すべての子どもたちに。

ACE は「子どもの権利が保障され、すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会を実現する」というビジョンを掲げる組織として、東日本大震災の復興支援を 2011 年 3 月に決定しました。現地調査を経て 5 月より災害ボランティアセンターへのスタッフ派遣を開始し、情報収集・関係構築を行いながら、被災地のニーズに合った支援を検討、実施しました。



ACE
—あたりまえを世界の子どもに—

認定 NPO 法人 ACE（エース）

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル 3F

Tel : 03-3835-7555 Fax : 03-3835-7601

E-mail : info@acejapan.org HP : www.acejapan.org

発行:2012年4月 デザイン:近藤 萌

山元町の紹介・被害状況

山元町は「東北の湘南」と呼ばれ、美しい海と自然に囲まれた住み心地のよいのどかな地域です。苺やりんご、ほっき貝も名産です。2011年3月11日、そんな山元町を地震と津波が襲いました。人口約18,000人の町のおよそ3分の1の世帯が壊滅的な被害を受け、町民の3.5%の約600人ものが亡くなりました。

日々の生活も大きな影響を受けました。JRの線路が流され、未だ復旧していないため、仙台方面への通学・通勤がとても不便になり、震災後に転出してしまふ家庭も多く、10月の時点では約14,600人と大きく人口が減少してしまいました。家が流され、1030世帯が仮設住宅に暮らしています。2つの小学校の校舎が使えなくなり、いつもと違う学校や教室で勉強をする子どもたちもいます。現在町では復興に向けた計画が進められていますが、地震と津波が奪ったものは、あまりにも大きかったといえます。



3. 宮城県の被災地の子ども支援（生活／教育）

宮城県仙台市でACEの活動を応援して下さい宮城学院の生徒さんの中にも今回の震災で被災した子どもたちがいました。これまでの生活を続けられなくなり、学校の寮で暮らすことになった中高生への支援を申し入れ、学校と調整の上、被災した中高生からのニーズをもとに、非常用ラジオ、下着やスクールソックス、辞書など新しい環境での生活や学業継続の為に生活・教育物資を提供しました。



4. 子どもたちへのワークショップ

本ワークショップは子どもたちが震災を受けての思いや経験を分かち合うことにより、子ども自身が持つ、心の傷を癒し回復する力を引き出すきっかけ作りをねらいとしています。2011年12月、2012年1月にかけて行った3回のワークショップでは3歳から18歳の計54人の子どもたちが参加し、家族や友人と離れて暮らすようになり、せまい仮設住宅でストレスを感じたりする中で率直な感想や気持ちを共有してもらうことができました。ワークショップで書いてもらった絵を含め、冊子にまとめ、子どもたちの想いを多くの人に共有しながら今後の活動に活かしていく予定です。（このプログラムは「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成を受けて実施しています。）



活動内容

1. 山元町災害ボランティアセンター運営支援

震災直後に被災地に足を運んだ多数のボランティアをコーディネートする「災害ボランティアセンター」の運営を支援する「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」（通称：支援P）と国際協力NGOセンターからスタッフ派遣協力の呼びかけがあり、これを受けて宮城県亶理郡山元町の災害ボランティアセンターへ2011年5月よりスタッフの派遣を開始しました。

山元町社会福祉協議会が母体となって設立されたこのセンターには、全国から多くの個人・団体のボランティアがかけつけました。ボランティアの受け入れ業務、またブログでの発信、運営マニュアル作成、物資の受け入れのコーディネートなど全般的なセンターの運営にACEの職員が交代で携わり、8月までのべ159日にわたる派遣を行いました。



2. 山元町の仮設住宅支援

山元町災害ボランティアセンターの活動の一環として、2011年6月より仮設住宅の支援チームに入り、生活相談員の皆さんと共に仮設住宅への支援物資の配布や見回り活動などを行ってまいりました。生活環境で不便なところはないか、健康状態などをうかがいながら、住民の方々のお宅を回らせていただきました。また、仮設住宅の限られたスペースではストレスが溜まりやすい状況があります。そこで、2011年7月から8月にかけて、子ども、大人も、お年寄りも一緒に楽しめる場を提供し、住民同士の交流を行う目的で、山元町内に当時完成していた6つの仮設住宅全てで「かき氷祭り」を山元町社会福祉協議会、(特活)ADRA JAPANと協力して開催しました。



2. 山元町の仮設住宅支援

実施時期 : 2011年6~8月
実施場所 : 宮城県亶理郡山元町
受益対象者 : 仮設住宅6地区に
居住する648世帯
従事者数 : 7人

4. 子ども向けワークショップの開催

実施時期 : 2011年9~2012年4月
実施場所 : 宮城県亶理郡山元町
受益対象者 : 山元町周辺に住む子ども54名
従事者数 : 5人

活動の成果、実績

ACEの震災復興支援は、山元町の仮設住宅支援・宮城県の被災地の子ども支援・山元町災害ボランティアセンター運営支援・子どもたちへのワークショップの4つの事業で行ってまいりました。それぞれの成果や実績は以下となります。

1. 災害ボランティアセンター運営支援

実施時期 : 2011年5~8月
実施場所 : 宮城県亶理郡山元町
受益対象者 : 山元町社会福祉協議会及び山元町の
住民約1万5千人
従事者数 : 9人(のべ159日)

3. 被災した子どもの生活・教育支援

実施時期 : 2011年4~9月
実施場所 : 宮城県仙台市
受益対象者 : 被災した宮城学院中学校・
高校の生徒24人
従事者数 : 2人

総支出額 : 4,063,292円(2011年)